



(財)全日本かるた協会B級公認読手
大津あきのた会所属
うえはら みか
上原 美翔さん

各地のイベントや競技かるたの大会で活躍し、3月2日に行われた「あいこうかうたプロジェクト」表彰式でも優秀作品を堂々と読み上げました。

●**競技かるたはどんな競技ですか？**
普通のかかるた遊びと同じように、読まれた歌の書かれた札を相手より先にとっていくのですが、競技とするために色々なルールが定められています。
例えば、競技かるたでは前の歌の下の句は4秒台で読み、その後3秒間音を伸ばさないといけません。前の歌と続く歌の間には1秒の空白がありますが、この1秒は「競技かるた」の中で最も緊迫する瞬間で、一番の見どころです。

●**読み手の役割は重要ですね。**
はい。私はB級公認読手という資格を持っていますが、取得は大変でした。3秒間伸ばすところと、1秒間の空白の間隔は、100首全て同じにしなければならず、十分の一秒単位でもずれることは許されません。県内でも、A級・B級併せて公認読手は数名しかいないため、100人もの競技者の前で読手を務めることもあります。

●**なぜ読手に？**
選手として更に上をめざすために、聞く側だけでなく読む側の感覚も大切だと考えたことがまず一つの理由です。それと、競技かるたを題材にしたアニメが放映されるなどして、徐々に競技人口が増えてきましたが、それに対して読み手が少ないままなのがもう一つの理由です。

●**この先も競技かるたを？**
はい。読手としては1つ上をめざし、選手としては毎年お正月に行われるクイーン戦出場を目標に努力していきたいと思えます。また、競技かるたを広めることのできる機会があれば積極的に関わっていきます。

競技かるたに興味を持たれた方は
大津あきのた会 090-4966-1910 (石沢)
http://www.geocities.jp/akinotakai/
◀この姿勢から目にも止まらぬ
速さで札が払われる



昔の災害について語り継ぐ事業

座談会「昔の災害について語り継ぐ」が3月4日、信楽町多羅尾老人憩いの家で開催され、昭和28年8月15日未明に多羅尾地区を襲った災害の記憶を地元の皆さんが語りあいました。この取組は、市がゼロ予算事業として、公式な資料には残らない災害の体験談を歴史として残し、今後の備えに役立てようという企画。
60年前の災害発生当時、20歳前後の若者だった皆さんは、忘れることのできない、時間の流れ方や、山津波に巻き込まれた瞬間などのつらいことなど、一人ひとりが記憶をたどりまし。これから発生する災害の被害を減らす手助けになればとの参加者の思いがこめられた様子は貴重な記録として映像に収められました。



▲体験した者にしか分からない貴重な話を

自らの体験を後世の災害減災のために

20歳の頃の成長を楽しみに

大原小学校卒業記念事業

卒業記念事業として大原小学校の6年生50人が3月5日、甲賀町神の共有山でヒノキの苗木の植樹を行いました。

この植樹は、118年間続く同校の伝統行事で、地域の皆さんが育林作業を行っています。地元区の役員は「しっかり根を張って、まっすぐに大きく育ててもらいたい」と苗木を手にする子どもたちに目を細めていました。

子どもたちは、自分の膝くらいに植え付けた木の成長を楽しみにしていました。



▲小学校の思い出に



元気なまちかど

水口岡山城第1次発掘調査



▲石垣跡を見入る見学者

水口岡山城第1次発掘調査の現地説明会が3月3日、古城山で行われ、約170人の歴史ファンが訪れました。
この調査は、古城山を市のシンボルの一つとして環境整備や事業を進めていく「あいこうか古城山プロジェクト」の一環で、市教育委員会が行っています。今回の調査で発見された石垣跡により、水口岡山城は、想定されていたよりも広範囲に石垣が組まれた大規模な城で、豊臣秀吉が東国に備える重要な戦略拠点として築城を命じたことが証明されました。
この大きな発見に、カメラやノートを手にした市職員の説明を受ける皆さんは、発掘された遺構を囲みかつての城の雄姿に思いを馳せていました。

岡山城の雄姿に 思いを馳せる

甲賀市人材活性化事業

市人材活性化事業（仮称）甲賀の守人塾のプログラムについての報告および意見交換会が3月5日、サントピア水口で行われ、自治会やNPOなどの団体から69人が参加しました。
この日は、まちづくりについての講演会の後、現在のプログラム作成状況について滋賀県立大森川穂准教授より、自分たちのまちづくりを語り合うことのできるサロンや研修会など具体的な提案の説明がありました。
「どうしたら若い人にもっと参加してもらえるんだろうか」など、市民一人ひとりが主体的に地域の課題に立ち向かっていくための仕組み作りを熱心に意見交換していました。



▲まちづくりの講演を聴く

まちづくり参加へ熱心な意見交換

甲賀ブランドで 更に魅力あるまちの発信を

甲賀ブランド認定商品モニターツアー

「甲賀もち工房」[窯元散策路]を巡る甲賀ブランド認定商品モニターツアーが3月6日、実施され、観光に携わる様々な職種の事業者など34人が参加しました。



▲ボランティアガイドの説明を聞く参加者

このツアーは、広く市内外の方々に認定商品を知っていただき、より良いものに育てていくための意見を募ることを目的に甲賀ブランド推進協議会が企画したものです。ツアーに参加した皆さんは、写真を撮ったり、ボランティアガイドの解説に耳を傾けていました。

ツアーの最後に行われた意見交換会では、事業者の方から次々に「十分な商品になる」など、前向きな意見やアドバイスが出され、認定商品を活用した更に魅力あるまちの発信に大きな期待が寄せられていました。